

がんセンターたより

当センターでは、がん医療に向けた研究を推進しており、その活動の一環として職員が学会に参加をしています。今号では、その一部を紹介します。

学会報告

米国臨床腫瘍学会 ASCO 2022

2022年6月3日～7日 イリノイ州シカゴ

呼吸器内科 加藤 晃史

“学会は Business” は築地時代の恩師の言。手塩にかけた研究を世界の仲間に見せ、新たな視点とネットワークを得て、すぐに次に向けて計画立案。ステークホルダーが皆笑顔で Win-Win、自己満足でなく他者と競争と協調、国際学会はそんなビジネスモデルで活かせ、と叩き込まれた。

パンデミックは ASCO をも Web 開催しからしめ、発表は一方通行、新しい繋がりには作れず。もどかしさに満ちた3年を経ての再会は、誰もが笑顔で語らい、ハグしあう喜びでポスター会場も熱気に溢れ、新たな肺がん治療の発表は4時間立ちづめで議論した。

臨床研究に必須の、人と人の繋がりや信頼、仲間との共感。これには時間と空間のライブ性が不可欠だったのだ、とりももたない時代を経て初めて気づけた4日間でした。



▲報告者：向かって右端

アジア泌尿器科学会 (UAA 2022)

2022年10月5日～8日 オーストラリア・シドニー

泌尿器科 寺尾 秀行

2022年10月5日から8日までオーストラリア・シドニーで開催された「アジア泌尿器科学会 (UAA2022)」に参加させていただき「Screening for prostate cancer in a city in Japan : Age-specific prostate-specific antigen cutoff threshold」のタイトルで高齢者の PSA カットオフ値に関しては現状より高く設定できる可能性がある旨を発表させていただきました。アジア泌尿器科学会はアジア・環太平洋・中東を含めた国々の泌尿器科学会となります。新しい手術技術の報告、各種癌の最新の治験や臨床試験についての報告を聞くことで知見を増やすことができ、今後のモチベーション向上にもつながるよい刺激を受けました。シドニーは南半球最大の都市で、残念ながら参加した日程は雨続きでしたが、海のきれいな港町でした。引き続き当院からもアジア・世界に報告を継続できるよう、日々の研鑽を積んでゆきたいと思います。



診療科紹介

消化器内科（肝胆膵）

消化器内科（肝胆膵） 部長 上野 誠

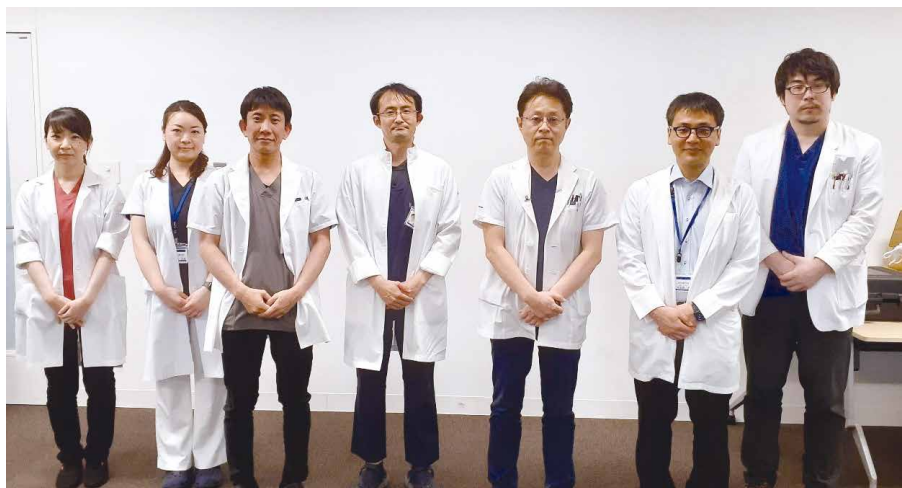
当科では、肝臓、胆道、膵臓の腫瘍を中心に、内視鏡、超音波による診断・治療、薬物療法を担当しています。肝臓においては、腫瘍生検、ラジオ波焼灼術、肝動脈カテーテル治療、薬物療法を担当し、胆道、膵臓の腫瘍においては、内視鏡診断・治療、薬物療法を積極的に行っています。これらの腫瘍では、様々な治療手段を用いて、集学的に治療を行っていくことが重要です。そのため、外科、放射線腫瘍医と連携し、手術、放射線治療の可能性を常に議論しています。2022年4月からは、肝細胞癌、肝内胆管癌、膵癌の一部で重粒子線治療が保険適用となり、その可能性についても積極的に検討しております。全国有数の診断・治療経験を有する施設と自負しており、皆様のお役に立てればと思っております。



消化器外科（大腸）

消化器外科（大腸） 部長 塩澤 学

消化器外科（大腸）では、主に手術で患者さんを根治させることを目指しています。たとえ他院で切除不能と宣言された患者さんでも、あきらめずに治癒させてきた実績があります。これには薬物療法や放射線療法、そして近年は重粒子線治療＋手術療法など、集学的に治療を行える当科の特徴だと思っています。患者さんの感情は治療に対しての不安やあきらめなど様々ですが、精神的、社会的な支えがないといくら良い治療を行おうとしても限界があります。医師だけではなく看護師、薬剤師、放射線関連のスタッフ、リハビリ技師、管理栄養士、外来・就労支援・後方支援を支える事務スタッフの力がなければ、患者意欲は減退し結果的に治癒できないこともあります。神奈川県立がんセンターで出会えた患者さんとの貴重な“つながり”を、大切にしていきたいと思っております。



緩和ケア週間

緩和ケアの普及啓発を目的に「緩和ケア週間」を開催いたしました（10月3日～10月7日）。外来に緩和ケアに関するポスター掲示を行い、がんセンターのHPにはACP（アドバンス・ケア・プランニング）について、みなさまに視聴していただけるよう動画配信を行いました。また、病院スタッフから患者さんへの応援メッセージには、「頑張る勇気をもらいました」「皆様からのメッセージは心にします」とのお声をいただきました。今年も新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、毎年好評のハンドマッサージや、様々な対面相談、リハビリ体験などはすべて中止とさせていただきますが、来年は、緩和ケア週間のイベントが開催できることを願っています。



化学療法を乗り切る

おうちごはんレシピの紹介

当センターHP掲載
“おうちごはん”レシピ



味覚障害の時の
おすすめメニュー
一例ご紹介

かきとしょうがの炊き込みご飯

50分

食欲
不振

味覚
障害



栄養量 (1人分)
エネルギー 297kcal / 蛋白質 8.7g
脂質 3.7g / 炭水化物 55.6g / 塩分 1.1g

乗り切り POINT

牡蠣に含まれる亜鉛 (Zn) は味を感じる舌の味蕾細胞を作るのを助けてくれます。不足しないようにするとよいでしょう。(亜鉛の1日の摂取推奨量は成人男性 10mg / 日、女性 8mg / 日)
また薬膳ポイントとしては、肝臓の機能を高める働きがあり、滋養強壮に役立つと知られています。

材料 (2合分)

米	2合
牡蠣オイル漬け	2缶
生姜	20g
まいたけ	80g
寄せ鍋の素 (キューブ)	2ヶ
しょうゆ	小さじ2

作り方

- ① 洗米し、水を切っておく。
- ② 牡蠣は油を切っておく。
- ③ まいたけは食べやすいサイズに手でほぐし、分量の醤油をふりかけておく。
- ④ 生姜は千切りにする。
- ⑤ 炊飯器に①の米と、2合分の水をセットする。鍋の素を崩しながら入れ、②③のをせて炊飯する。

看護の日看護週間記念行事



看護の日および看護週間記念行事のお知らせ

メインテーマ「看護の心をみんなの心に」

5月12日は看護の日です。
 ナイチンゲールの誕生日にちなみ制定されました。

昨年、当センターにおいても「看護の日」にちなみ
 イベントを実施しておりましたが、昨年度に引き続き、
 新型コロナウイルス感染症予防対策のためポスター展
 のみとし、イベントは中止させていただきます。

日時：5月9日(月)夕方～6月9日(木)
 会場：病院棟2階ホストナート

各セクション紹介ポスターの展示
 ※1階には展示スペースが限られており、ご来館の際は、
 入館時ご来館の受付で展示するセクションを
 選べるなどのご協力をお願いいたします。

お問合せ先：看護教育部

近代看護の基礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日は看護の日と制定されています。看護の日は、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合い、だれもが育むきっかけとなるようにという願いにより、1990年に旧厚生省により制定されました。

当センターでも、毎年記念行事を行っていますが、コロナ禍で対面行事が行えず、今年度は、看護局（各セクション）・栄養管理科・放射線診断技術科・検査科・薬剤科・臨床研究所の6部門による展示をメインに開催しました。各部門紹介や「大事にしている看護について」をテーマとしたポスターを作成し、イベントを盛り上げました。多くの方が足を止めて見ていただきました。



先端医療セミナー開催

当センターは、手術、放射線、薬物療法を組み合わせ最良のがん医療を提供しています。放射線治療のひとつである「重粒子線治療」では子宮頸部腺がん、肝細胞癌、管内胆管癌、すい臓がん、大腸がん術後再発について保険適用拡大となりました。各疾患について「先端医療セミナー」をシリーズで開催し当院の取り組みをご案内しました。

第1回婦人科がんを6月2日に、第2回頭頸部がんを8月4日に、第3回肝細胞がんを10月13日に開催しました。次回第4回は膵癌・胆道癌をテーマに、12月8日開催します。

第4回 先端医療セミナー
 ～膵癌・胆道癌～

日時：2022年12月8日(木) 18:30～19:30
 形式：オンライン開催 (ZOOM webinar)
 ※観覧より事前登録をお願い申し上げます

～ PROGRAM ～

総司会 古瀬 純司 先生
 (神奈川県立がんセンター 総長)

18:30～ Session 1 (膵癌・胆道癌治療)
 『膵癌・胆道癌の化学療法とがんゲノム医療』

演者 上野 誠 先生
 (神奈川県立がんセンター 消化器内科肝臓部 部長)

19:00～ Session 2 (重粒子線治療)
 『膵癌・胆道癌に対する重粒子線治療』

演者 溝口 信貴 先生
 (神奈川県立がんセンター 放射線治療科 医長)

事前登録はこちら

下記リンクまたは2次元コードより、事前登録をお願い申し上げます。
 開催2日前に、ご登録頂いたメールアドレス宛に
 ZOOM ID/PWをご案内いたします。

事前登録リンク：<https://forms.office.com/r/UJ0xenZEvk>

共催 神奈川県立がんセンター／中外製薬株式会社

新任医師の紹介

職員の異動がありましたので、
 ご紹介します。
 よろしく申し上げます。



消化器外科(胃食道)
 医長 兼松 恭平

編集後記

コロナ第8波が不安なところもありますが、病院もwith coronaが定着し、多少の波はあるものの通常診療に近い状況に戻りつつあります。当院のがん診療が継続できたのは、患者さんと地域医療機関の皆様のご協力があったからこそ。この場を借りて感謝申し上げますとともに、これからは顔の見える交流も復活させたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

副院長 患者支援室長 岸田 健